

第 707 回 日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

日 時： 2025 年 7 月 12 日(土) 午後 2 時 00 分

開催会場： アットビジネスセンター八重洲 501 号室

* 講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備 考
1,000 円	小児科領域講習 1 単位 (iii 貼付用) 学術集会参加単位 (iv-B 貼付用)	* 単位を取得するためには教育講演 全ての聴講が必要 (60 分)



【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■ 日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通ハタビル 5・6 階

※建物の外観：ガラスカーテンウォール

※看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会 長：水野 克己（昭和医科大学医学部小児科主任教授）

主幹校：昭和医科大学医学部小児科 担当：阿部 祥英

連絡先：jpestokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP：<https://jpeds-tokyo.com/>



第 707 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内厳守のこと)

《プログラム係 東京都立小児総合医療センター 幡谷 浩史》

一般演題 (1) 14:00 – 14:40 座長 岸部 峻 (東京都立小児総合医療センター 救命救急科)

1) 治療中の Basedow 病合併母体から出生した重症新生児 Basedow 病の 1 例

○金井 ひなた¹⁾、鈴木 未来²⁾、松岡 峻也²⁾、町元 葉紗²⁾、飯坂 建太²⁾、室田 直紀²⁾、岡部 朗子²⁾、山崎 晋²⁾、岩崎 友宏²⁾、高橋 秀弘²⁾、滝口 真未³⁾、三森 愛美³⁾、田久保 憲行³⁾、寒竹 正人²⁾

(¹⁾ 順天堂大学医学部附属練馬病院 臨床研修センター、²⁾ 同 新生児科、³⁾ 順天堂大学医学部小児科学講座)

日齢 0 新生児。正期産であった。母体は Basedow 病のためチアマゾール 20 mg/日とヨウ化カリウム 50 mg/日を服用していたが、妊娠後期に TRAb 136 IU/L と高値だった。出生後、児は TSH 高値、FT3 と FT4 低値でレボチロキシン Na を開始した。日齢 5 に FT3 高値に転じ、児の TRAb 137 IU/L から新生児 Basedow 病の診断でチアマゾールを開始した。母体介入するも重症だった 1 例を報告する。

2) 肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症を契機に診断されたプロテイン C 欠乏症の 1 例

○北野 太晟¹⁾、内田 登²⁾、鈴木 健之³⁾、井上 忠²⁾、吉田 沙千恵²⁾、藤野 元子²⁾

(¹⁾ 東京都済生会中央病院 臨床研修室、²⁾ 同 小児科、³⁾ 同 循環器内科)

15 歳女子。血栓症の家族歴はない。6 か月前に低用量ピルを開始した。腰痛、下肢痛、息切れから前医で肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症と診断された。ヘパリン投与開始後当院に転院し、血栓回収療法、残存血栓に対するアピキサバン内服が開始され、入院 43 日後に退院した。プロテイン C (PC) 抗原量 36%、PC 活性 42% で PROC 遺伝子に病的バリエーション (p.Leu265Phe) を認め、先天性 PC 欠乏症と診断した。

3) 加熱式たばこ誤飲で従来と異なる対応を要した 1 例

○星野 湘子^{1) 2)}、小坂 百合香²⁾、堀川 美和子²⁾、竹内 一郎³⁾、大西 志麻⁴⁾、井手 健太郎⁵⁾

利根川 尚也¹⁾、島袋 林秀²⁾、窪田 満²⁾、庄司 健介¹⁾

(¹⁾ 国立成育医療研究センター 教育研修センター、²⁾ 同 総合診療部、³⁾ 同 消化器科、

⁴⁾ 同 救急診療科、⁵⁾ 同 集中治療科)

1 歳女児。加熱式たばこの誤飲により入院した。ニコチン中毒症状の軽快後も金属片が体内に残存し、排泄までに 6 日を要した。消化管損傷はなかった。加熱式たばこは 2016 年に全国展開されて以降、現在は喫煙者の約 4 割が使用しており、誤飲症例も多数報告されている。従来の紙巻きたばこと異なり、加熱式たばこ誤飲はニコチン中毒に加え加熱用の金属片への対応が必要になる。両者の特徴と対応の相違点について報告する。

4) 個人輸入された動物用レボチロキシン Na を誤飲した幼児の 1 例

○井坂 光佑¹⁾、津浦 海里²⁾、服部 花穂²⁾、木島 俊英²⁾、市橋 洋輔²⁾、鳴海 覚志²⁾

(¹⁾ 東京都立大塚病院小児科、²⁾ 慶應義塾大学医学部小児科)

1 歳 7 か月男児。イヌ用のレボチロキシン Na 1000 μ g を誤飲し、甲状腺中毒症状を認めなかった。しかし、3 日目に高血圧を認め、 β 遮断薬およびヒドロコルチゾンを 3 日間投与した。国内での甲状腺ホルモン薬の大量誤飲の報告はまれだが、個人輸入の一般化により、誤飲例の増加が懸念される。

5) ヒトパルボウイルス B19 感染による汎血球減少の 1 例

○石橋 佑脩、星野 顕宏、若月 良介、渡部 良平、宮本 智史、神谷 尚宏、磯田 健志、
金兼 弘和、高木 正稔

(東京科学大学小児科)

13 歳女子。生来健康である。5 日間遷延する発熱と上気道症状があり、血液検査で汎血球減少を認めた。骨髓検査では低形成骨髓であった。血液中のヒトパルボウイルス B19 DNA が陽性であった。輸血は要さずに経過観察したところ、2 週間で血球は回復した。ヒトパルボウイルス B19 は赤芽球以外の骨髓細胞への感染を示唆する報告もあり、汎血球減少の原因になりうると考えられた。

6) 寛解導入療法後に重症緑膿菌性臀部蜂窩織炎を合併した B 前駆細胞性急性リンパ性白血病の 1 例

○宮崎 裕貴、田村 豪良、金澤 剛二、四宮田 悠、中原 衣里菜、伊東 正剛、下澤 克宜、
森岡 一朗

(日本大学小児科)

4 歳男児。B 前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する寛解導入療法後の骨髓抑制期に発熱性好中球減少症と左臀部蜂窩織炎をきたした。血液と膿の培養検査で緑膿菌が検出された。抗菌薬治療で解熱したが、皮膚所見は増悪し大きなポケット形成を伴う膿瘍を形成した。早期にデブリードマンと陰圧閉鎖療法で感染制御し、白血病治療を再開して救命できた。好中球減少期の皮膚軟部組織感染症について文献的考察を加えて報告する。

7) 化膿性肝膿瘍に対して抗菌薬のみで軽快したトリソミー 18 の 1 例

○天野 景勝、林 佳奈子、内多 涼香、南 早織、河内 優美、中澤 はる香、渡邊 由祐、
春日 晃子、高橋 英城、竹下 美佳、千代反田 雅子、山中 岳

(東京医科大学病院小児科・思春期科)

2 歳女児。基礎疾患にトリソミー 18 を有する。発熱、肝逸脱酵素値の上昇があり、当院へ紹介された。腹部超音波検査で肝右葉に 50 mm 大の多房性の膿瘍を認めた。基礎疾患を考慮し、膿瘍穿刺ではなく抗菌薬による保存的加療で治癒した。小児の化膿性肝膿瘍は比較的まれであるが、通常は外科的治療が選択される。しかし、基礎疾患を有する小児への適応は議論があり、小児の化膿性肝膿瘍の治療について文献的考察を交えて報告する。

8) *Haemophilus influenzae* type c が同定された骨膜下膿瘍の 1 例

○河西 紗希、永田 万純、稲毛 英介、遠山 雄大、仲川 真由、神保 圭佑、安部 信平、
鈴木 光幸、東海林 宏道

(順天堂大学医学部附属順天堂医院 小児科・思春期科)

1 歳 8 か月女児。生来健康で定期のワクチンは接種していた。感冒症状の翌日より左眼瞼腫脹を認め、前医で左眼窩骨膜下膿瘍と診断され、当院へ転院した。血液培養検査で *Haemophilus influenzae* type c (Hic) が検出され、侵襲性 Hic 感染症と診断した。緊急膿瘍ドレナージ術、抗菌薬治療により合併症なく退院した。侵襲性 Hic 感染症の報告は世界的にまれであり、文献的考察を交えて報告する。

演題募集中!

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。

【東京都地方会 HP】 <https://jpedts-tokyo.com/>



* * 休 憩 15:20 - 15:30 * *

感染症だより 15:30 - 15:45 (講演: 15分)

講師 森野 紗衣子 (国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 予防接種研究部)

総 会 15:45 - 15:55

* * 休 憩 15:55 - 16:05 * *

教育講演 16:05 - 17:10 (講演: 60分 + 質疑応答: 5分) 小児科領域講習 1単位

「小児がん発症の遺伝的背景」

座長 神谷 太郎 (昭和医科大学藤が丘病院小児科)

講師 高木 正稔 (東京科学大学 医歯学総合研究科 発生発達病態学分野)

成人2人に1人ががんを発症するとされている。成人のがんは加齢、環境因子などの要因が高いが、一方で、家族性乳がん卵巣がん症候群、リンチ症候群のように一部は遺伝性腫瘍として発症している。小児がんは加齢、環境因子などの要因が少ないため、その発症に遺伝的背景が関与していることは容易に想像できる。実際、小児がんの10%弱が遺伝的背景のもとに発症していることが明らかになっている。小児がん発症の遺伝的背景について概説する。

◆ 2025年度講話会及び年間行事予定 ◆

■ 講話会予定

講話会	日 程	会 場	備 考
第708回	2025年9月13日(土)	アットビジネスセンター八重洲通 (会場開催のみ)	※演題締切
第709回	2025年10月11日(土)		※演題締切 2025年8月20日
第710回	2025年12月13日(土)		※演題締切 2025年9月20日
第711回	2026年1月10日(土)		※演題締切 2025年11月20日
第712回	2026年2月14日(土)		※演題締切 2025年12月20日
第713回	2026年3月14日(土)		※演題締切 2026年1月20日

* 4, 5, 8, 11月は休会

■ 小児診療初期対応（JPLS）開催予定

日本小児科学会と東京都地方会の共催で小児診療初期対応（Japan Pediatric Life Support : JPLS）を年間3回開催されることが予定されています。

取得単位：小児科専門医（新制度）更新単位 iii小児科領域講習3単位

開催日程	会 場	申込開始時期
2025 年 12 月 7 日（日）	日本大学	※参加申込は各コース 4 か月前より
2026 年 2 月 7 日（土）	国立成育医療研究センター	
2026 年 2 月 8 日（日）	国立成育医療研究センター	

申し込み先：日本小児科学会 HP

https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=221

■ 第 50 回東日本小児科学会のご案内

会 長：昭和医科大学医学部小児科学講座小児内科学部門 教授 水野 克己

大会テーマ：こどもたちの笑顔あふれる社会を目指して

日 程：令和7年11月23日（日・祝）

会 場：一般財団法人全電通労働会館（ハイブリッド開催）

U R L：<https://www.k-gakkai.jp/eastjp50/>



◆ 会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ ◆

【2025 年会費納入について】

2024 年度より年会費が 8,000 円となっております。

年会費納入のお知らせを 2025 年 4 月 1 日以降、メールおよびホームページにてご案内しております。

2025 年度会費及び 2024 年度・2023 年度 会費未納の方は【会員マイページ】より納入手続きいただきますようお願いいたします。

3 年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。

*会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きをお願いいたします。

【年会費免除申請について】

学部学生（大学院生は除く）および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。

学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証（写）と年会費免除申請書（東京都地方会ホームページよりダウンロード可）を事務局に申請してください。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認ください。

ご不明な点がございましたら運営事務局までご連絡をお願いいたします。

【主幹校（会長校）】昭和医科大学医学部小児科

【運営事務局】日本大学医学部小児科

【主幹校／運営事務局 共通アドレス】

✉ jpstokyo-office@umin.ac.jp

【東京都地方会 HP】

<https://jpeds-tokyo.com/>

